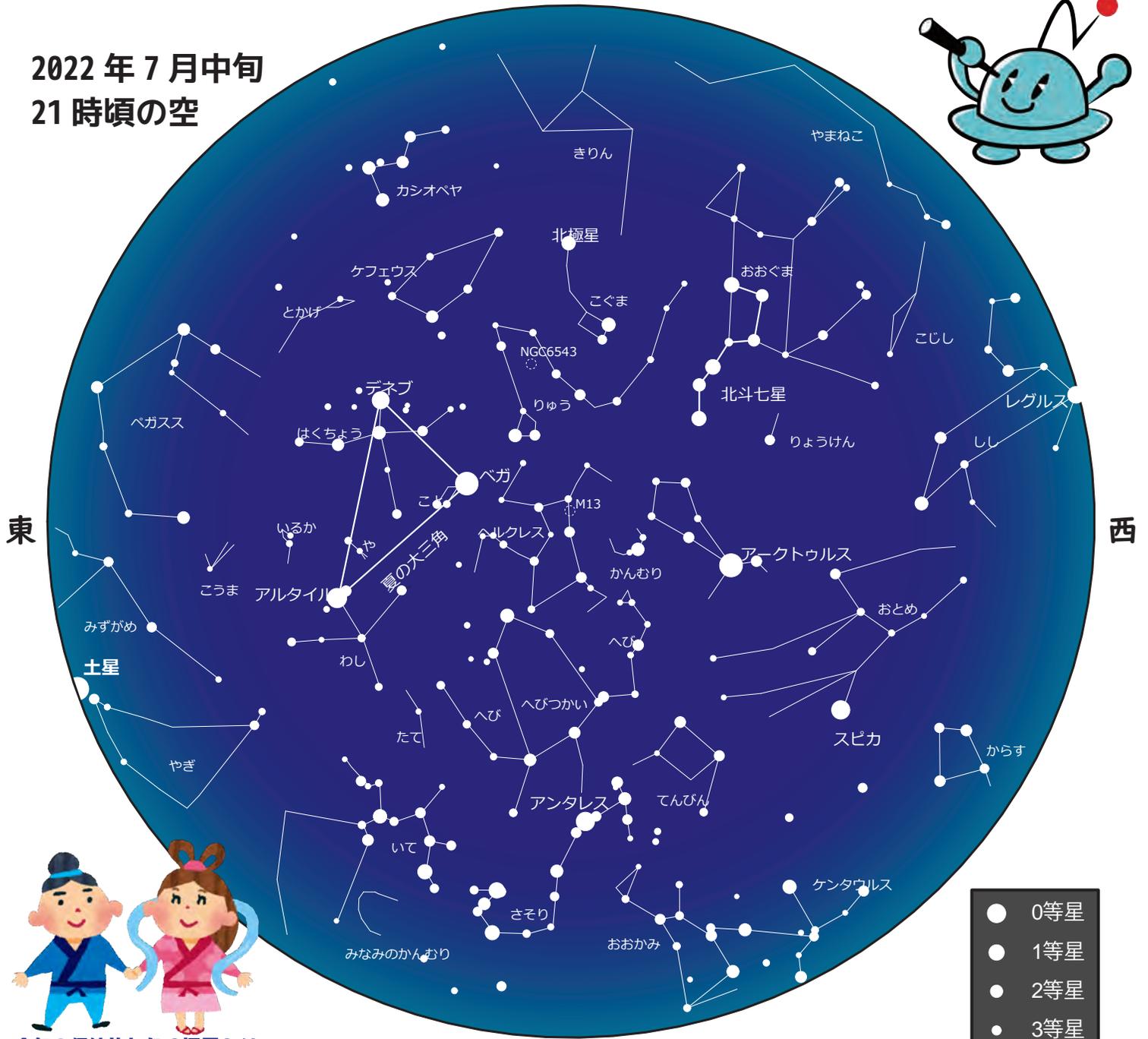


阿南市科学センター 7月の星空案内

北

2022年7月中旬
21時頃の空



今年の伝統的七夕(旧暦)は
8月4日だよ!

南

梅雨明けとともに、セミの鳴き声が聞こえてくれば、いよいよ暑い夏の訪れ。雨ばかりでしばらくお預け状態だった星空を見上げれば、すっかりと夏の装いに変わっています。南の空には赤っぽく光る**アンタレス**の輝きを目印に、誕生星座でも有名な**さそり座**を見つけることができます。さそり座を形作るS字カーブのような星の並びは、日本では釣針にみたく、「うおつりぼし」や「たいつりぼし」という名で呼ぶ地域がありました。東よりの高い空には**夏の大三角**が昇り、小学4年生の理科で学習する**ベガ**(こと座)、**アルタイル**(わし座)、**デネブ**(はくちょう座)を見つけることができます。七夕伝説では織姫星がベガ、彦星がアルタイルにあたり、日本では昔から七夕にあわせて親しまれてきた星たちです。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

7月の月の満ち欠けと惑星について



上弦
7日



満月
14日



下弦
20日



新月
29日

7月の天体観望会で月が見える日時は？



7/9(土) 20時、21時の回がおすすめ

今月の満月は今年最大サイズ



月と地球の距離は最大約5万km変化しています。そのため、満月のときの大きさを比べると、見かけの大きさも1割程度変わるんだよ!

水星：上旬の明け方頃、東のごく低空で見える。【約-1.0等】

金星：明け方頃、東の低空で見える（明けの明星）。【約-3.9等】

火星：夜半過ぎ木星に続いて東の空に昇る。【約0.4等】

木星：前半頃に土星に続いて東の空に昇る。【約-2.5等】

土星：夜半前に東の空から昇り、来月観察好機を迎える。【約0.5等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ（水星のみ月上旬頃）。

今月のおすすめ天体など

【NGC6543 キャッツアイ星雲】

夏の夜、北よりの空には「りゅう座」という星座が見え、この領域にはキャッツアイ星雲（NGC6543）という愛称で呼ばれる天体があります。当館の望遠鏡で観察すると、青みがかった星雲の姿に宇宙の神秘を感じることができます。星雲の中央には寿命が尽きかけの恒星があり、この星から大量のガスが宇宙空間にじわじわと放出され、キャッツアイ星雲を形成していると考えられています。なお太陽もいずれは宇宙にガスを放出しながら、このような最期を迎えると言われています。



四国最大の望遠鏡で撮影したキャッツアイ星雲
(撮影：K. Imamura)

【M13 ヘルクレス座の球状星団】

7月の夜9時頃、天頂付近にはギリシャ神話の英雄「ヘルクレス座」が見え、この領域には球状星団（M13）と呼ばれる天体があります。空の暗いところであれば、小型の双眼鏡でもボォ〜と白っぽい塊として見つけることができます。当館の望遠鏡で観察すると一つ一つの星に細かく分解して見え、無数の星の集まりにため息が出るほどです。この星団は約10万個以上の星が直径約100光年の範囲に集まっており、大部分は100億歳に近い老齢な星だと考えられています。



四国最大の望遠鏡で撮影したM13
(撮影：K. Imamura)